



木 畑 洋 一 先 生

木畑洋一先生略歴・業績

学 歴

- 1970年3月 東京大学教養学部教養学科卒業（教養学士）
- 1970年4月 東京大学大学院社会学研究科国際関係論専門課程修士課程入学
- 1972年3月 同上修了（国際学修士）
- 1972年4月 東京大学大学院社会学研究科国際関係論専門課程博士課程入学
- 1972年12月 同上中退

職 歴

- 1972年12月 東京大学教養学部助手（至1977年3月）
- 1977年4月 東京外国語大学外国語学部専任講師（至1982年3月）
- 1982年4月 同上助教授（至1983年3月）
- 1983年4月 東京大学教養学部助教授（至1992年3月）
- 1992年4月 同上教授（至1996年3月）
- 1996年4月 東京大学大学院総合文化研究科教授（至2009年3月）
- 2002年4月 東京大学評議員（至2004年3月）
- 2004年4月 東京大学駒場図書館長（至2005年2月）
- 2005年2月 東京大学大学院総合文化研究科研究科長・教養学部長（至2007年2月）
- 2009年4月 成城大学法学部教授（至2017年3月）
- 2011年4月 成城大学図書館長（至2015年3月）
- 2015年4月 成城大学国際センター長（至2017年3月）

学会及び社会における主要活動

- 2000 年 9 月 国際歴史学委員会日本国内委員会委員長 (至 2010 年 8 月)
2001 年 4 月 日韓歴史家会議運営委員 (至 2017 年 11 月)
2004 年 5 月 歴史学研究会委員長 (至 2007 年 6 月)
2006 年 7 月 日本歴史学協会委員長 (至 2009 年 7 月)
2008 年 5 月 史学会理事 (至 2010 年 5 月)
2010 年 4 月 日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員 (至 2013 年 3 月)
2012 年 10 月 日本国際政治学会評議員 (至 2016 年 6 月)

著作目録

単著

- 『支配の代償 英帝国の崩壊と「帝国意識」』東京大学出版会、1987
『日独伊三国同盟と第二次大戦』(岩波ブックレット シリーズ昭和史 4) 岩波書店、1988
『帝国のたそがれ 冷戦下のイギリスとアジア』東京大学出版会、1996
『国際体制の展開』(世界史リブレット 54) 山川出版社、1997
『第二次世界大戦 現代世界への転換点』(歴史文化ライブラリー 114) 吉川弘文館、2001
『イギリス帝国と帝国主義 比較と関係の視座』有志舎、2008
『二〇世紀の歴史』(岩波新書) 岩波書店、2014
『チャーチル イギリス帝国と歩んだ男』(世界史リブレット 人シリーズ 97) 山川出版社、2016
『帝国航路を往く イギリス植民地と近代日本』(シリーズ 日本の中の世界史) 岩波書店、2018

編著

- 『世界歴史大系イギリス史 3 近現代』（村岡健次と共編）山川出版社、1991
執筆部分：「第一次世界大戦」、「二十年間の模索—両大戦間期」、「第二次世界大戦」
- 『ドキュメント 真珠湾の日』（佐々木隆爾他と共編）大月書店、1991
欧米に関する資料の選択・翻訳担当
- 『大英帝国と帝国意識 支配の深層を探る』ミネルヴァ書房、1998
執筆部分：「イギリスの帝国意識」
- 『20世紀の歴史家たち (3) 世界編 上』（尾形勇、樺山紘一と共編）刀水書房、1999
執筆部分：「カー (E.H.)」
- 『南から見た世界 6 グローバリゼーション下の苦闘』大月書店、1999
執筆部分：「世界現代史の中の〈南〉の世界」
- 『日英交流史 1600 - 2000 2 政治・外交 2』（イアン・ニッシュ、細谷千博、田中孝彦と共編）東京大学出版会、2000
執筆部分：「失われた協調の機会？」
- 『イギリスの歴史 帝国=コモンウェルスのあゆみ』（川北稔と共編）有斐閣、2000
執筆部分：「帝国からの自立」、「新生イギリスの模索」
- The History of Anglo-Japanese Relations, 1600-2000, Vol.2, The Political-Diplomatic Dimension, 1930-2000* (Ian Nish と共編), Basingstoke/London: Macmillan, 2000
執筆部分：“Anglo-Japanese Relations from the Manchurian Incident to Pearl Harbor: Missed Opportunities?”
- Japanese Prisoners of War* (Philip Towle, Margaret Kosuge と共編), London/New York: Hambledon and London, 2000
執筆部分：“Japanese Treatment of British Prisoners: The Historical Context”
- 『地域文化研究Ⅲ ヨーロッパの文化と社会 イギリスを中心として』（山内久明、草光俊雄と共編）放送大学教育振興会、2002

執筆部分：「民族と人種の融和」、「政治と女性」（鈴木実佳と共同執筆）、
「イギリスと世界」、「イギリスと日本」（山内久明、草光俊雄と共同執筆）
『戦争の記憶と捕虜問題』（小菅信子、フィリップ・トウルと共編）東京大学
出版会、2003

執筆部分：「『西欧文明』への挑戦？ 日本軍による英軍捕虜虐待の歴史的
背景」

『講座 戦争と現代 2 20世紀の戦争とは何であったか』大月書店、2004

執筆部分：「総論 近・現代世界と戦争」、「総力戦としての二つの世界大
戦」

『イギリス外交史』（佐々木雄太と共編）有斐閣、2005

執筆部分：「欧州統合の深化を前に 冷戦後の時代 1990年代」、「混迷のな
かの出発 21世紀のイギリス外交」

『ヨーロッパ統合と国際関係』日本経済評論社、2005

執筆部分：「国際関係史のなかのヨーロッパ統一—非ヨーロッパ世界との
関わりから」

『イギリス帝国と20世紀 第5巻 現代世界とイギリス帝国』ミネルヴァ書
房、2007

執筆部分：「総論 現代世界とイギリス帝国の影」、「二つの島国帝国——
イギリスと日本」

『日韓 歴史家の誕生』（車河淳と共編）東京大学出版会、2008

執筆部分：「日韓歴史家会議と「歴史家の誕生」」

『帝国の長い影—20世紀国際秩序の変容』（後藤春美と共編）ミネルヴァ書房、
2010

執筆部分：「覇権交代の陰で ディエゴガルシアと英米関係」

『岩波講座 東アジア近現代通史 7 アジア諸戦争の時代 1945-1960年』（和
田春樹他と共編）岩波書店、2011

執筆部分：「通史 アジア諸戦争の時代 1945-1960年」（和田春樹他『東ア
ジア近現代通史』下、岩波書店、2014に再録）

『近代イギリスの歴史 16世紀から現代まで』（秋田茂と共編）ミネルヴァ

書房, 2011

執筆部分: 「グローバル化のなかのイギリス」、「コラム 反骨の映画監督
ケン・ローチ」

『矢内原忠雄』(鴨下重彦他と共編) 東京大学出版会、2011

執筆部分: 「植民政策論・国際関係論」

『座談会 世界史の中の安倍政権』(南塚信吾、小谷汪之と共編) 日本経済評論社、2015

『ヨーロッパ・デモクラシー 危機と転換』(宮島喬、小川有美と共編) 岩波書店、2018

執筆部分: 「ヨーロッパのなかのイギリス——EU 離脱と連合王国の行方」

単行本所収論文

「1930年代におけるイギリスの東アジア認識」藤原彰・野沢豊編『日本ファシズムと東アジア』青木書店、1977

「日本ファシズム形成期における国際環境」江口圭一編『体系日本現代史 1』日本評論社、1978

「リース = ロス使節国と英中関係」野沢豊編『中国の幣制改革と国際関係』東京大学出版会、1981

「世界の岐路と15年戦争」歴史学研究会・日本史研究会編『講座 日本歴史 10 近代 4』東京大学出版会、1985

「対日講和とイギリスのアジア政策」渡辺昭夫・宮里政玄編『サンフランシスコ講和』東京大学出版会、1986

“Japanese Views of the British Empire, 1931-1945”, Ian Nish (ed.), *Anglo-Japanese Relations in the 1930s and 1940s*, London: LSE, 1986

「(各国の外交政策) イギリス」『講座 国際政治 2 外交政策』東京大学出版会、1989

「[中国人奴隷]とイギリス政治」油井大三郎他『世紀転換期の世界 帝国主義支配の重層構造』未来社、1989

「サンフランシスコ体制の始動」歴史学研究会編『日本同時代史 3 55年

- 体制と安保闘争』青木書店、1990
- 「イギリス近代国家とスコットランド, ウェールズ」柴田三千雄他編『シリーズ世界史への問い 9 世界の構造化』岩波書店、1991
- “Britain and the Far East during the First Cold War 1947-1955”, Ian Nish(ed.), *East Asia in the Post-War Period, 1945-1955*, London: LSE, 1991
- 「英国と日本の植民地統治」『岩波講座 近代日本と植民地 1 植民地帝国 日本』岩波書店、1992
- 「現代世界史」歴史教育者協議会編『あたらしい歴史教育 1 世界史とは何か』大月書店、1993
- 「ヨーロッパ統合とアイデンティティの重層性:EC」蓮実重彦・山内昌之編『いまなぜ民族か』東京大学出版会、1994
- 「世界史の構造と国民国家」歴史学研究会編『国民国家を問う』青木書店、1994
- 「ヨーロッパから見たアジア太平洋戦争」中村政則他編『戦後日本 占領と戦後改革 1 世界史のなかの 1945 年』岩波書店、1995
- 「ジュビリー・イアーズ 帝国の祭典」松村昌家他編『英国文化の世紀 5 世界の中の英国』研究社出版、1996
- 「第二次世界大戦の構造と性格」歴史学研究会編『講座 世界史 8 戦争と民衆』東京大学出版会、1996
- 「帝国の残像 コモンウェルスにかけた夢」山内昌之他編『帝国とは何か』東京大学出版会、1997
- 「世界史のなかの日本」樺山紘一他編『世界史へ』山川出版社、1998
- 「危機と戦争の 20 年」『岩波講座 世界歴史 24 解放の光と影』岩波書店、1998
- 「福祉国家への道」川北稔編『世界各国史 11 イギリス史』山川出版社、1998
- 「イギリス帝国主義と帝国意識」北川勝彦・平田雅博編『帝国意識の解剖学』世界思想社、1999
- 「イギリス帝国の変容と東アジア」秋田茂・籠谷直人編『1930 年代のアジア

- 国際秩序』 溪水社、2001
- 「一九〇〇年前後の帝国主義世界体制と日本」 比較史・比較歴史教育研究会編『帝国主義の時代と現在 東アジアの対話』 未来社、2002
- 「植民地主義の遺産と「文明」の驕り」 松原正毅他編『岐路に立つ世界を語る 9.11 以後の危機と希望』 平凡社、2002
- ”Reasserting Imperial Power? Britain and East Asia in the 1930s”, in: Shigeru Akita (ed.), *Gentlemanly Capitalism, Imperialism and Global History*, Basingstoke/New York: Palgrave Macmillan, 2002
- 「帝国主義と世界システム」 歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 1980-2000 年 I 歴史学における方法的転回』 青木書店、2002
- 「帝国内の人流と独立運動」 青木保他編『アジア新世紀 2 歴史 アジアの作られかた・作りかた』 岩波書店、2003
- 「英印外交・軍事関係の変貌 脱植民地化と南アジア」 秋田茂・水島司編『現代南アジア 6 世界システムとネットワーク』 東京大学出版会、2003
- 「21 世紀の東アジア——公共知交流の場としての展望とその前提」 佐々木毅他編『公共哲学叢書 4 東アジアにおける公共知の創出 過去・現在・未来』 東京大学出版会、2003
- 「歴史学と修正主義」 史学会編『歴史学の最前線』 東京大学出版会、2004
- 「イギリスと EU」 森井裕一編『国際関係の中の拡大 EU』 信山社、2005
- 「アイデンティティの模索と安全保障 アジア太平洋におけるオーストラリアとニュージーランド」 山本吉宣編『アジア太平洋の安全保障とアメリカ』 彩流社、2005
- 「現代世界と帝国論」 歴史学研究会編『帝国への新たな視座 歴史研究の地平から』 (シリーズ歴史学の現在 10) 青木書店、2005
- “Unfinished Decolonisation and Conflicts over Historical Memories”, in: Stephen Alomes (ed.), *Islands in the Stream. Australia and Japan Face Globalisation*, Hawthorn, Victoria (Australia): Maribyrnong Press, 2005
- 「イギリス帝国の崩壊とアメリカ——1960 年代アジア太平洋における国際秩序の変容」 渡辺昭一編『帝国の終焉とアメリカ アジア国際秩序の再編』

山川出版社、2006

「世界大戦と帝国の再編」油井大三郎他編『岩波講座 アジア・太平洋戦争 8 20 世紀の中のアジア・太平洋戦争』岩波書店、2006

「イギリスとバルカン—20 世紀の歴史から」柴宜弘編『バルカン史と歴史教育 「地域史」とアイデンティティの再構築』明石書店、2008

「グローバル・ヒストリーと帝国・帝国主義」水島司編『グローバル・ヒストリーの挑戦』山川出版社、2008

“Peacemaking and after: Anglo-Japanese relations and Japan’s reentry into international society”, in: Hugo Dobson and Kosuge Nobuko (eds.), *Japan and Britain at War and Peace*, London/New York: Routledge, 2009

World/Global History from a Japanese Perspective (Working Paper, No.11, Global History and Maritime Asia), 2009

“British Imperialism in Asia and Anglo-Japanese Relations, 1930s-1950s”, in: Shigeru Akita and Nicholas J. White, eds., *The International Order of Asia in the 1930s and 1950s*, Farnham, Surrey: Ashgate, 2009

「アジアにおけるイギリス帝国の終焉」『岩波講座 東アジア近現代通史 8 ベトナム戦争の時代 1960-1975 年』岩波書店、2011

「日本の国際社会復帰と日英関係」小菅信子、ヒューゴ・ドブソン編『紛争と和解の日英関係史』法政大学出版局、2011

「[帝国の総力戦]としての第一次世界大戦」メトロポリタン史学会編『20 世紀の戦争 その歴史的位相』有志舎、2012

「総論 帝国と帝国主義」、「陽の沈まぬ帝国—イギリス帝国論」木畑他『帝国と帝国主義』(21 世紀歴史学の創造 4) 有志舎、2012

“Commonwealth Cooperation and Rivalry”, in: Ian Nish, ed., *The British Commonwealth and the Allied Occupation of Japan 1945-1952*, Leiden/Boston: Global Oriental, 2013

「イギリスと EU——統合深化への消極性」羽場久美子編『EU (欧州連合)を知るための 63 章』明石書店、2013

「アジアにおける国際秩序の変容と日英関係」渡辺昭一編『コロombo・プラ

ン 戦後アジア国際秩序の形成』法政大学出版社、2014

“The changing international order in Asia and Anglo-Japanese relations: from the mid-1950s to the early 1960s”, in: Shigeru Akita et al., eds., *The Transformation of the International Order of Asia: Decolonization, the Cold War, and the Colombo Plan*, Abingdon, Oxon: Routledge, 2014

「帝国支配国の戦争 イギリスと第二次世界大戦」歴史学研究会編『史料から考える世界史 20 講』岩波書店、2014

「グローバルな歴史研究に向けて」小澤正人編『歴史認識のグローバル研究』成城大学グローバル研究センター、2016

“Towards ‘a new Okinawa’ in the Indian Ocean: Diego Garcia and Anglo-American relations in the 1960s”, in: Antony Best, ed., *Britain’s Retreat from Empire in East Asia, 1905-1980*, Abingdon, Oxon: Routledge, 2017

「グローバル・ヒストリー——可能性と課題」歴史学研究会編『第4次現代歴史学の成果と課題 1 新自由主義時代の歴史学』績文堂出版、2017

「援助の墓場？ 一九六〇年代オーストラリアのインドネシア援助政策」渡辺昭一編『冷戦変容期の国際開発援助とアジア』ミネルヴァ書房、2017

雑誌・紀要所収論文

「イギリスの対ドイツ「宥和政策」と東南欧 1938—1939」『歴史学研究』393, 1973

「「奇妙な戦争」期におけるイギリスの対ドイツ政策」『教養学科紀要』（東京大学）、6, 1974

「イギリスの EC 加盟と現代史研究」『歴史学研究』439, 1976

「日中戦争前史における国際環境—イギリスの対日政策 1934 年」『教養学科紀要』（東京大学）、9, 1977

「15 年戦争とイギリス」『歴史学研究』別冊特集、1979

「日中戦争前夜におけるイギリスの対日政策」『東京外国語大学論集』29, 1979

「帝国主義時代への視座」『歴史学研究』602, 1990（斉藤孝他編『思索する歴

史家江口朴郎』青木書店、1991 に再録)

「アジア太平洋戦争を世界はどう見たか—イギリスの場合」『歴史評論』508, 1992

“British and Japanese Colonial Rule in Comparison”, 『外国語科研究紀要』(東京大学教養学部) 42-3, 1995

「戦後帝国主義とアジア太平洋国際秩序」『歴史学研究』677, 1995

「世界史のなかの日本の戦後五〇年」『歴史地理教育』528, 1995

「世界史はいかに読み直されているか」『歴史評論』566, 1997

“The Eclipse of the British Empire in East Asia, the 1920s-the1950s”, 『つくばカナダセミナー報告書』8, 1997

「20 世紀の国際体制—支配の時代から共生の時代へ」『社会科学研究』50-5, 1999

“Die Kolonialpolitik Grossbritanniens und Japans”, *Zeitschrift für Geschichtswissenschaft*, 1999-5

「現代世界と帝国論」『歴史学研究』776, 2003

「東アジア共同体への道——戦争の世紀を後に」『中小商工業研究』85, 2005

「ディエゴガルシア——インド洋における脱植民地化と英米の覇権交代」『学術の動向』2007. 3

「脱植民地化の諸相」『歴史と地理』639 (世界史の研究 225) 山川出版社, 2010

“Two Island Empires Compared: Britain and Japan”, *The East Asian Journal of British History*, Vol.1, 2011

「[ジュネヴの冬は寂しかった。] 柳田國男と国際連盟」『現代思想』10 月臨時増刊号, 2012

「イギリス帝国の解体と現代世界」『日本歴史学協会年報』29, 2014

「第一次世界大戦の基礎知識」『歴史地理教育』821, 2014

「“Brixit” への道? 21 世紀初頭のイギリスと EU」『成城法学』83, 2014

「歴史学におけるグローバルな視座」『グローバル研究』2, 2015

「アジアのなかの日本—「戦後 70 年」に想う」『歴史学研究』934, 2015

- 「ヨーロッパとアジアの第二次世界大戦」『ユーラシア研究』53, 2015
- 「「不快な隣国」への援助——マレーシア紛争とオーストラリアのインドネシア援助政策」『ヨーロッパ文化史研究』（東北学院大学）18, 2017
- 「近現代世界とヨーロッパの位相」『法学新報』124-1・2, 2017
- 「20世紀の革命」『歴史評論』810, 2017
- 「現代世界と戦争——歴史的視座から」『歴史学研究 増刊号』976, 2018